

ビジターセンターまんが。



漫画・みやぎ

このお客様に「アイゼンは持ってますか？」と聞いたら「アイ…なんですかそれ？」というやり取りもありました(笑) こんなことが、毎年結構多いんです。でも、街なかに住んでいる方からすれば、4月、5月はポカポカの春。山にまだ雪があるなんて、初心者の方なら尚更、イメージできるわけがありません。偉そうにこんなことを書いている私も、ビジターセンターで働く前は低山しか登らなかったで、このお客様と同じ認識でした。気持ちがよく分かります…。

奥日光は、4月下旬から中禅寺湖の周辺でやっと花が咲き始め、ビジターセンターのある湯元ですら、春らしくなるのは5月下旬からです。更に標高の高い白根山(2,578m)の春は、少なくともそれ以降ということ。

最近はインターネットやアプリ等で、過去の状況から最新情報まですぐ調べることができます。それらの情報に頼りすぎるのはよくありませんが、うまく活用して、計画を立ててください。もちろん、ビジターセンターにもお問合せください。

奥日光の自然情報誌

楓通信 No.148

発行：自然公園財団日光支部

Tel：0288-62-2461

2022年3月初旬発行

季刊 無料

次号 2022年6月初旬 発行予定

『楓通信』定期購読について

本誌は無料です。定期購読は、2年単位(発行数8部)で1,000円(送料・手数料・税込)となっております。

購読をご希望の方は、日光湯元ビジターセンターへ直接お越しになり申込書にご記入いただくか、お電話にてお問合せくださいませ。

不明点やご質問がございましたら、楓通信担当、宮城までご連絡くださいますようお願い申し上げます。 TEL：0288-62-2461

奥日光の自然情報誌

楓通信

2022年 No.148
3-5月号



毛づくろいするサル

今号の見どころ

- ・ 案外知られていない？ 湯ノ湖のシャクナゲ
- ・ シカ管理専門員執筆！ 鹿柵(しかさく)新聞

鹿柵新聞

しかさく
発行所 〒321-1662
日光湯元
ビジターセンター

奥日光の
自然情報誌
楓通信
最新号は
受付まで!

シカ対策 専門員に聞く

シカ柵管理の実態

壊れゆく柵を直す

管理されなくなった建物
は、自然に飲み込まれる。
人の手から離れた建築物は、
野となり山となるばかりだ。
それでは、シカ柵はその機
能を十分に果たせない。今
から20年前に環境省が設置
した「シカ侵入防止柵(以
下シカ柵)」では今日まで
維持管理が続けられている。



シカ柵に絡まるシカ オスの角が絡まる
ことが多い



左:柵への倒木 右:土砂で埋まる柵
台風が直撃すると被害が増加する



左:柵の外側 右:柵の内側 中央:柵
柵外は地面が見えている。

奥日光シカ管理専門員は、
様々な要因で破損するシ
カ柵を月平均6周巡回し、
補修点検を行う。その作
業時間は年々増加してい
る。倒木に支柱を折られ、
大雨でネットに土砂が溜
まり、野生動物には柵を
破壊され、植物は柵をよ
じ登る。人の手が入らな
くなった途端に、戦
場ヶ原の植生が被害
を受ける事は、柵の
内外を比べるだけで
も想像がつく。

「一度に複数頭のシカ
の柵絡まりがあると大
変です」とは高山さん。
体重40、70kgのシカを
時には何kmも引きずる。
シカを持ち帰った後は、
解体作業が待った。専門
員歴4年の大村さんは
「柵の管理よりも問題
が起きた時、人との調
整が大変」と語る。環
境を守る仕事であって
も、結局は人との関係
に行き着く。専門員の
班長を務める松本さん
からは「作業現場が遠
い」。歩道もなく、移
動だけで1時間程かか
る場合もある。楽な仕
事ではないが、やりが
いもある。松本さんは
「野外の仕事では自然
の現状を肌で感じる。
それを皆さんに伝えて
いくのも自分達の仕事
だ」と締めくくった。

鹿の子斑

模様 さまざま

白斑が散在する模様。ニホ
ンジカは夏、性別や年齢に関
わらずこの毛皮の柄となる。
木漏れ日の降る林縁の地面に
溶け込みやすい。草を食べ、
地面に座り込み反芻するシカ
の生活に適している柄だろう。
高山夏鈴(奥日光シカ管理専門員)



かのこまだら

鹿鳴考

2022.3.1
ユーカーリ。だが「シカが食
べる植物は何ですか」と聞かれ
「正確に答えられる研究者はい
ないだろう」▼猛毒のトリカブ
トを食べないとする研究もあれば、
トを食べないという報告もある。その地域
のシカが「どれだけ飢えているか」
の差だ▼シカ柵の内側でもシカが食
べる植物には差がある。柵内にだけ
残る植物も多い▼飢えたシカは樹皮
まで剥がして食べる。樹木からすれ
ば堪ったものではない▼樹木が倒れ、
根で抱えていた土壌が雨で流れる先
は、人々が暮らす下流域だ▼様々な
被害をもたらすシカの数が増えたの
は人間の影響が大きい▼シカトとい
う言葉は花札の10月「紅葉とシカ」
で横を向くシカが由来らしい▼いつ
までもそっぽを向いてもいられない。

クロスワードパズル Ver.2



なかなか自粛生活が終わらない日々…。おうちにいながら日光に思いを馳せていただくべく、また作っちゃいましたクロスワードパズル! そして今回も、本誌に下記解答を記入してビジターセンターにご持参いただいた先着20名様に、
温かい飲み物を1杯サービス! コーヒーの他、ココアなどの甘い飲み物も取り揃えております! ぜひ~!

あかやしおの花もほころぶ

	A	B	C	D	E		
①		②	●	③	●	④	
	●		●	⑤		⑥	
●	⑦	C	⑧	●		●	
⑨		●		●	⑩		⑪
	●	⑫		●			
D	⑬	⑭	E	●	⑮	A	
●	⑯		●	⑰		●	
⑱	●	⑲	B	●	⑳		

▽横の設問

- ①○○○○グマは、胸部に三日月の様な模様がある。
- ②絶滅危惧IB類の○○○○は早贗で有名な○○の仲間で、細身で赤っぽい。
- ③日本三大鳴鳥の1種で、湯ノ湖には5月頃飛来する。
- ④冬に来るミコ○○サは「パンダガモ」とも呼ばれ親しまれている。
- ⑤夏の終わり、奥日光はアキアカネ等の○○○で一杯になる。
- ⑥音もなく飛べる羽等を持つ猛禽類。
- ⑦○○○○は、丸い胞子の袋を押すのが楽しい茸。
- ⑧日本最小のフクロウの仲間の○○○ズクは、「声のプッポウソウ」とも呼ばれる。
- ⑨コムラサキやクジャクチョウは奥日光でよく見られる○○ハチョウの仲間。
- ⑩カッコウの仲間の○○ドリは6月頃に筒を叩いて鳴らす様な声で鳴く。
- ⑪漁業に用いられる事もある、潜水して魚を丸呑みにする鳥。
- ⑫体は灰色、翼・尾・頭上は黒く、黄色の太い丈夫な嘴で硬い実を割る小鳥。
- ⑬○○○ジはアオジと似たさえずりするホオジロの仲間。オスは全身が暗い灰色。

▽縦の設問

- ①シカのオスは毎年春先から頭に生える○○を落とし、また生やす。
- ②オスの喉には赤い斑紋が入る鳥で、戦場ヶ原は有名な観察地である。
- ③ニホン○○の食害から植物を守るために、20年前戦場ヶ原に柵が作られた。
- ④○○ガモは飛行時の羽音が鈴の音の様に聞こえる事が名前の由来と言われている。
- ⑤ツキノワグマの夏季の重要な食物資源であり、多くが地上を徘徊し餌を探す身近な社会性昆虫。
- ⑥○○○ガは樹上性の雑食性のげっ歯類で、前肢と後肢の間の皮膜を広げ木から木へ飛び移る。
- ⑦湯ノ湖では温泉が流れ込む所に多く住む、環境適応能力が高い大型の淡水魚。
- ⑧○○○○は奥日光ではミズナラやブナ等がつける堅果の総称。
- ⑨○○○バメは長い翼を持ち非常に飛行能力に優れる鳥。
- ⑩ビジターセンターではシカ等の骨格標本の一種である○○○○標本が展示されている
- ⑪冬季に湖へ飛来する鳥の一種で、オスは頭部が赤褐色で、翼に白い帯がある。
- ⑫シカやイノシシ等の足は、主に地面につく主蹄と○○○○からなる。
- ⑭「○○け」は、栃木県民のソウルフードの山の幸。
- ⑮○○目クイナ科のオオバンは、冬の湯ノ湖でよく見られる鳥の一種。

解答は来号!



案外知られていない？

湯ノ湖のシヤクナゲ



アズマシヤクナゲ (ツツジ科)

奥日光では主に中禅寺湖、高山、太郎山や湯ノ湖に群落がある。葉は分厚く青々としており、光沢がある。ツツジの花が密集したような花付きも特徴的。亜高山帯の林内や稜線上に分布する。

奥日光の長い冬が終わり、四月になると、お客様から様々な植物の問い合わせが頂きます。その中でも、アカヤシオなどのツツジ類、戦場ヶ原のズミなど、春から夏にかけての花に関する内容が特に多いです。

その人気の花たちと同時期に、ビジターセンターのお隣、湯ノ湖でも、鮮やかなピンク色の花が斜面一面に咲きます。それが『アズマシヤクナゲ (以下シヤクナゲ)』です。

ビジターセンターの職員にとっては身近な花なので、私たちは毎年楽しみにしているのですが、周りからは見えにくい歩道の山側にあるせいか、問い合わせの件数が圧倒的に少ないです。そんな、控えめなシヤクナゲの魅力をお伝えするべく、近年の中でも格別に花付きが良かった、昨年の写真で紹介いたします。

写真のように、湯ノ湖の歩道沿いにたくさんのお花を咲かせます。花期は5月中旬から下旬。ご存知なかった方はこの写真だけでも驚かれるかもしれませんが、今回使用した写真は群落のごく一部の様子です。ピーク時には広範囲にわたり、シヤクナゲを見ながらハイキングを楽しむことができます。

シヤクナゲは中禅寺湖や太郎山にも群落がありますが、アークセスの良さと手軽さは湯ノ湖がダントツ！一周約一時間なので、ふらっとお散歩できるのもポイント。きついアップダウンはないので、体力に自信のない方でもお子様でも、気軽に歩くことができます。湖面を背景に見ると、ピンクがなんとも鮮やかで、コントラストが美しいですね。風がない日は、湖面に写り込む「逆さシヤクナゲ」も楽しめます。

奥日光には、他県から毎年お越し下さる常連の方がたくさんいらっしゃいます。しかし、歩き慣れた常連の方々にとって、湯ノ湖は難易度的に物足りないのか、歩いたことも、湯ノ湖のシヤクナゲを見たこともない、という方が意外と多いようです。前述したように、湯ノ湖は約一時間で一周できるので、時間を気にせず、じっくり自然観察や撮影ができ、常連の方こそ、新しい発見があるかもしれませんよ？

花のひとつひとつにも注目してみてください。

①は蕾で、②は下部から徐々に開花が始まっています。①と②を見比べると、①はひときわ色が濃く(色補正してません!)、花が開き始めた②は淡い色になっています。③のように満開の花に注目しがちですが、花の開き具合によって、色の濃淡が異なり、個性豊かなのです。②は綺麗なグラデーシオンになっていますよね？

色々な角度から観察して、こうした違いを楽しめるのも、シヤクナゲの魅力。まれに④のように、花の色が薄く白っぽい物もあるので、ゆっくりじっくり観察して、ぜひお気に入りを探してみてください！

ただし、湯ノ湖のシヤクナゲは、年によって花付きに大きな差があります。前述した通り、去年は花の数が圧倒的に多かったです。その反面、半分も花が咲かない年もしばしば…。

しかし、これは他の花に関しても言える事で、何年も連続で花付きが良くなることはまずありません。人間と同じで、植物もエネルギーを温存します。それが、湯ノ湖のシヤクナゲに関し

ては、特に顕著に現れるということです。

湯ノ湖のシヤクナゲが咲く頃は、シロヤシオやトウゴクミツバツツジ、サクラ類も咲き始めます。奥日光に春を告げる様々な花を、同時に楽しめる良い時季です。「シヤクナゲはピークではなかったけど、トウゴクミツバツツジが満開だった！」なんてサプライズもあるのが、春の奥日光の良いところ。お目当ての花がイマイチだったとしても、場所や目的を変えると、思わぬ出会いがありますよ！

奥日光の春は「今日ほどの花の調子が良いかな？」といった具合に、広い視野で見ることがポイント！その中に、今年からはシヤクナゲも追加していただけたら嬉しいですよ。

そして、開花状況の確認は、ぜひビジターセンターへ！見頃の時季を事前に確認したい場合は、ホームページに一覧がありますので、こちらであればいつでも確認できます。

遅い春を体感しに、奥日光へ足を運んでみてはいかがでしょう？

文・宮城



シヤクナゲの群落があるのは湯ノ湖の西側(白根山側)。タイミングが良ければトウゴクミツバツツジも一緒に楽しめるかも…?! 湯ノ湖のハイキングコースを歩かなければこの景色を見ることはできません。ご存知なかった方はぜひ!



山歩きに最適な季節がやってきた！

ビジターセンターのイベント

ヒミツの洞窟へ行こう！鳴虫山の中ソネ観音

普通に行こうと思ったら絶対分からない！秘密の場所へご案内

4月8日（金）
9:30-14:30

対象：現地に集合できる小学生以上の方
(15歳未満は保護者同伴・20歳未満は親権者の同意必要)
集合場所：上鉢石無料駐車場（神橋近く）



定員 15名 先着順(要予約)

庶民信仰の観音様が、鳴虫山のヒミツの洞窟に？！
みんなでコロナの終息を祈りましょう。ええいっ、
疫病退散っ！冒険感満載のコースなので「冒険」「洞窟」のワードにビビってきた方は楽しめると思います。
洞窟の中には一体何が…？絶対にすぐ満員になりますのでお申込みは超お早めに！！

【ルート】上鉢石P→志渡淵川→中ソネ観音→mekke（日光郷土センター）

参加費 4,000円

ゼロから始める！バードウォッチング

初心者の方には、まだ葉っぱが少ないこの時季がおすすめ！

4月30日、5月4日
5月7日
9:30-11:30

対象：現地に集合できる方（空きがあれば飛び入り参加も可！）
(15歳未満は保護者同伴・20歳未満は親権者の同意必要)
集合場所：日光湯元ビジターセンター



定員 10名 先着順(要予約)

バードウォッチングを全くやったことがない方向け！
鳥の探し方、双眼鏡の使い方など、実践しながら丁寧にレクチャーします。野鳥大好きお兄さんによる解説も毎回好評です！もちろん双眼鏡のレンタル付きなので、手ぶらでお気軽どうぞ！

【ルート】湯元温泉街周辺

参加費 1,000円

【湧水シリーズ①】清らかなる、千手観音湧水

「奥日光の湧水シリーズ」第一弾！巨木の森と湧水を巡ります

6月4日（土）
10:30-15:30

対象：現地に集合できる小学生以上の方
(15歳未満は保護者同伴・20歳未満は親権者の同意必要)
集合場所：千手ヶ浜バス停（9:25赤沼発のバスでお越し下さい）

千手ヶ浜から柳沢沿いを廻り、千手の巨木の林をめざします。途中、柳沢の清冽な湧き水や森の不思議を探しながら歩きます。行きつく先に待っているのは、清らかな千手観音湧水…。静かな森で、心と身体を清めましょう。道なき道ですが起伏はほとんどないので、体力に自信のない方でも楽しめます！

【ルート】千手ヶ浜バス停→船着き場→柳沢湧水→千手観音湧水→千手堂→千手ヶ浜バス停

参加費 4,000円



定員 15名 先着順(要予約)

シカ柵歩きとツツジと新緑！高山裏街道

高山には登らないけど、シカ柵沿いの一部を特別に歩きます！

6月12日（日）
9:30-15:00

対象：現地に集合できる小学生以上の方
(15歳未満は保護者同伴・20歳未満は親権者の同意必要)
集合場所：竜頭ノ滝上駐車場

新緑とツツジを楽しむだけでなく、今回は特別に、普段はシカ管理専門員しか入れないシカ柵沿いの一部も歩きます！「高山」とありますが、なんと高山には登りません(笑) 高山のまわりをぐるっと1周します。登山ではなくトレッキングのイメージ。ぜひお気軽にご参加ください～。

【ルート】竜頭ノ滝上P→シカ柵の一部→熊窪→中禅寺湖北岸→竜頭ノ滝上P

参加費 4,000円



定員 15名 先着順(要予約)

お申込み先（自然公園財団日光支部）

MAIL:yumotovc.guide@bes.or.jp

TEL:0288-62-2461

FAX:0288-62-2378

お申込みの際、令和元～3年実施イベントの参加の有無、氏名・年齢、郵便番号・住所・電話及び当日連絡先、交通手段をお知らせください。